

第1回 駅ホームにおける安全性向上のための検討会

平成28年8月26日(金)

13:30～15:30

合同庁舎7号館13階共用第一特別会議室

議事次第

1. 「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」の設置について
2. 転落事故の概要報告
3. ホームドアの整備促進等について
 - (1) ホームドアの整備状況
 - (2) 新しいホームドアの技術開発の現状
4. 心のバリアフリー関係について
 - (1) 視覚障害者への声かけ、誘導案内の強化について
 - (2) 盲導犬を同伴する視覚障害者への対応について
5. 意見交換

【配付資料】

議事次第、出席者名簿、配席図

資料1:「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」設置趣旨

資料1-2:ホームからの転落事故に対する過去の経緯

資料1-3:転落事故件数の推移

資料2:事故の概要及び同種事故の防止策について

資料3-1:ホームドアの整備状況等について

資料3-2:新たなタイプのホームドアの技術開発事例

「駅ホームにおける安全性向上のための検討会(第1回)」出席者

東日本旅客鉄道(株)	廣川 隆 今井 政人	安全企画部長 投資計画部長
東海旅客鉄道(株)	生田 元 古橋 智久	総合企画本部副本部長 投資計画部長 安全対策部長
西日本旅客鉄道(株)	半田 真一	取締役兼常務執行役員 鉄道本部副本部長 鉄道本部安全推進部長 (代理出席:伊藤 宏明 鉄道本部 安全推進部次長) (代理出席:後藤 淳彦 鉄道本部 CS推進部課長)
東武鉄道(株)	小野里 一彦 高野 寿久	安全推進部長 計画管理部長
西武鉄道(株)	松本 康一郎 岡崎 利生	執行役員 計画管理部長 安全推進部部長
京成電鉄(株)	金子 庄吉	計画管理部長
京王電鉄(株)	佐原 拓爾 井上 晋一	安全推進部長 計画管理部長
小田急電鉄(株)	立山 昭憲 宮坂 正俊	交通企画部部長 安全・技術部長
東京急行電鉄(株)	富田 秀樹 戸田 匡介	鉄道事業本部 安全戦略推進委員会 統括部長 鉄道事業本部 事業戦略部 統括部長
京浜急行電鉄(株)	小林 秀行 竹内 明男	鉄道本部 安全推進部長 鉄道本部 鉄道統括部長
相模鉄道(株)	高橋 正人	安全対策部長
京阪電気鉄道(株)	佐藤 之浩	安全推進部長
東京地下鉄(株)	米 彰 (代理出席:浅野 裕 小川 孝行)	鉄道本部 鉄道統括部長 安全・技術部長 鉄道本部 営業部長
東京都交通局	牧野 和宏 裏田 勝己	企画担当部長 安全管理担当部長
横浜市交通局	大西 順一	高速鉄道本部長
大阪市交通局	大矢 雅士 岡橋 和成 (代理出席:中野 満夫 経営企画課長)	鉄道事業本部 鉄道統括部長 経営管理本部 経営管理部長
(一社)日本民営鉄道協会	高橋 俊晴 (代理出席:山本 典彦)	常務理事 技術部長 技術部 次長
(一社)日本地下鉄協会	石島 徹	業務部長
国土交通省	潮崎 俊也 山上 範芳	技術審議官(鉄道) 審議官(鉄道)
国土交通省 鉄道局	中山 康二 山崎 輝 川上 洋二 日野 祥英 岸谷 克己	技術企画課長 安全監理官 鉄道サービス政策室長 都市鉄道政策課 駅機能高度化推進室長 技術開発室長

「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」の設置について

1. 趣旨

駅ホームからの転落事故が依然として発生している状況を踏まえ、ホームドア、心のバリアフリーなど、総合的な転落等の防止対策を進める。

2. 構成員

別紙参照

※ このほか、必要に応じて、ホームドア設置に知見を有する鉄道事業者、利用者、学識経験者等に対するヒアリングを実施

3. 検討内容

- (1) ホームドアの整備促進等
- (2) 心のバリアフリー関係
- (3) その他

4. 検討スケジュール

年内に3～4回程度開催し、年内の中間とりまとめを目指す。

「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」委員名簿

東日本旅客鉄道(株)	廣川 隆 今井 政人	安全企画部長 投資計画部長
東海旅客鉄道(株)	生田 元 古橋 智久	総合企画本部副本部長 投資計画部長 安全対策部長
西日本旅客鉄道(株)	半田 真一	取締役兼常務執行役員 鉄道本部副本部長 鉄道本部安全推進部長
東武鉄道(株)	小野里 一彦 高野 寿久	安全推進部長 計画管理部長
西武鉄道(株)	松本 康一郎 岡崎 利生	執行役員 計画管理部長 安全推進部部長
京成電鉄(株)	金子 庄吉	計画管理部長
京王電鉄(株)	佐原 拓爾 井上 晋一	安全推進部長 計画管理部長
小田急電鉄(株)	立山 昭憲 宮坂 正俊	交通企画部部長 安全・技術部長
東京急行電鉄(株)	富田 秀樹 戸田 匡介	鉄道事業本部 安全戦略推進委員会 統括部長 鉄道事業本部 事業戦略部 統括部長
京浜急行電鉄(株)	小林 秀行 竹内 明男	鉄道本部 安全推進部長 鉄道本部 鉄道統括部長
相模鉄道(株)	杉本 法広 高橋 正人	経営管理部長 安全対策部長
京阪電気鉄道(株)	佐藤 之浩	安全推進部長
東京地下鉄(株)	米 彰 小川 孝行	鉄道本部 鉄道統括部長 鉄道本部 営業部長
東京都交通局	牧野 和宏 裏田 勝己	企画担当部長 安全管理担当部長
横浜市交通局	大西 順一	高速鉄道本部長
大阪市交通局	大矢 雅士 岡橋 和成	鉄道事業本部 鉄道統括部長 経営管理本部 経営管理部長
(一社)日本民営鉄道協会	高橋 俊晴	常務理事 技術部長
(一社)日本地下鉄協会	石島 徹	業務部長
国土交通省	潮崎 俊也 山上 範芳	技術審議官(鉄道) 審議官(鉄道)
国土交通省 鉄道局	中山 康二 山崎 輝 川上 洋二 日野 祥英 岸谷 克己	技術企画課長 安全監理官 鉄道サービス政策室長 都市鉄道政策課 駅機能高度化推進室長 技術開発室長

ホームからの転落事故に対する過去の経緯

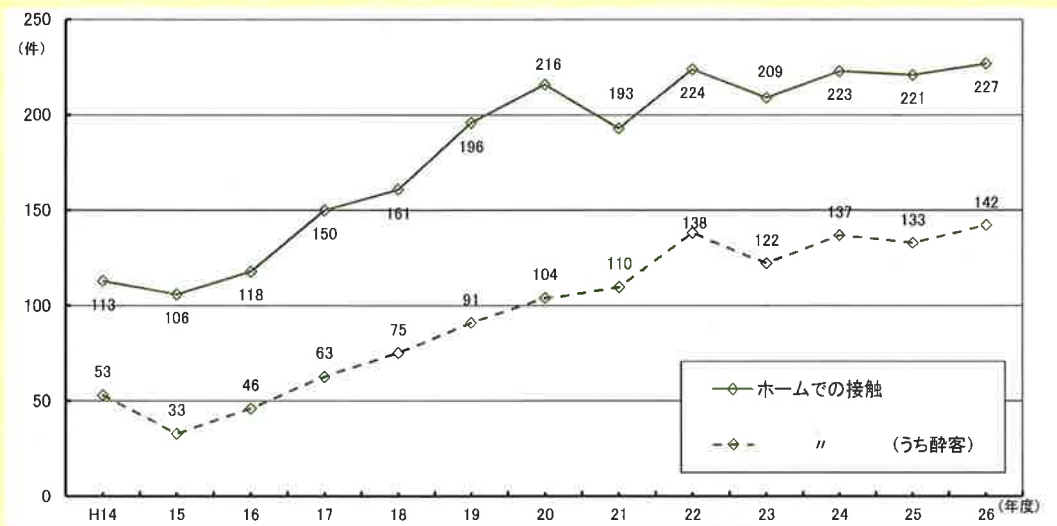
資料1-2

	新大久保駅転落事故 ▼H13.1.26	目白駅転落事故 ▽H23.1.16
転落時の 危険回避方策	▼H13.2.19 通達 ※非常停止押ボタン又は、転落検知マット設置 ※プラットホーム下の待避スペース確保又はステップ設置 (以上については、H26年度までに対象2072駅完了)	
旅客自身の 注意喚起方策 (ホーム縁端 ブロック等)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> H10.3 東急池上線 固定式ホーム柵設置 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> H14.12 内方線付き点状 ブロックのガイド ライン化 </div> </div>	▼H23.8.10 ホームドア整備促進等検討会中間とりまとめ公表 ・利用者1万人以上の駅に、同ブロックの整備を可能な限り速やかに実施 ・利用者10万人以上の駅には、同ブロックの整備を優先して速やかに実施(概ね5年で整備)
物理的に 遮断する方策 (ホームドア)	▼H15.12.5 ホーム柵検討会報告書公表 ・新規単独路線は、ホーム柵設置が望ましい。	▼H23.8.10 ホームドア整備促進等検討会中間とりまとめ公表 ・利用者10万人以上の駅にホームドア整備を優先して速やかに実施 ・車両位置が一定である等ホームドア設置が可能な駅はその整備を優先。路線や区間単位による整備も検討。
声かけ	▼H13.2.19 通達 ※旅客に対する注意喚起の徹底等	▼H23.8.10 ホームドア整備促進等検討会中間とりまとめ公表 ・「心のバリアフリー」に関するソフト施策の一体的推進 ー鉄道係員に対する教育 ー旅客への啓発の強化

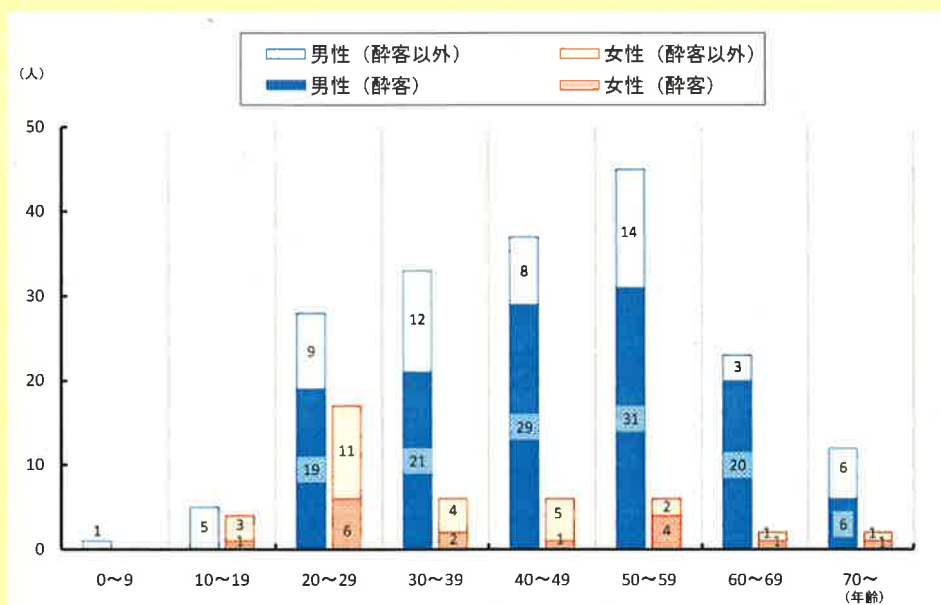
(2) ホームにおける人身障害事故の状況

- 平成26年度に発生した人身障害事故は449件で、運転事故全体の59.2%を占めており、このうち「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を含めた「ホームでの接触」による人身障害事故は227件となっています。
- 「ホームでの接触」のうち、酔客に係るものは142件となっています。
- また、ホームから転落して接触した人身障害事故は、非常押しボタンの整備等の対策が進められているものの、減少までには至っていません。

ホームにおける人身障害事故件数の推移

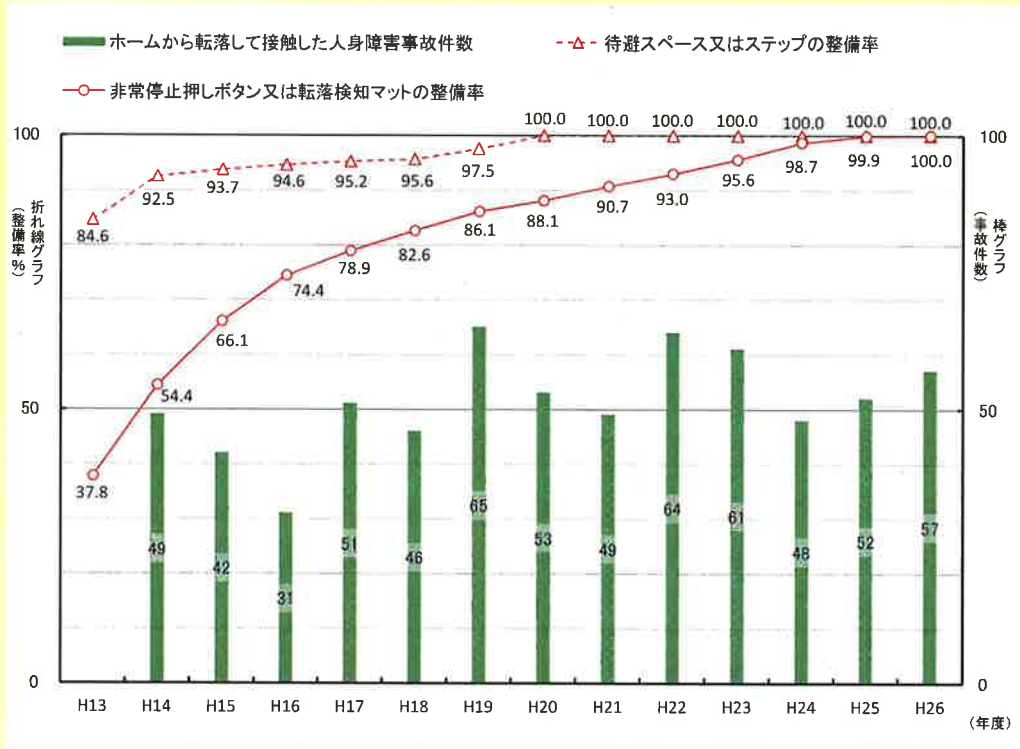


平成26年度 ホームにおける人身障害事故による死傷者数(年齢別)



※年齢を把握できなかった場合は、除いています。

ホームの安全対策とホームから転落して接触した人身障害事故件数の推移



※非常停止ボタン等の整備については、ホームへの列車の進入速度が概ね60km/h 以上、かつ、運転本数が1時間あたり概ね12本以上の列車が通過又は停車するホームが対象

(3) ホームからの転落に関する状況

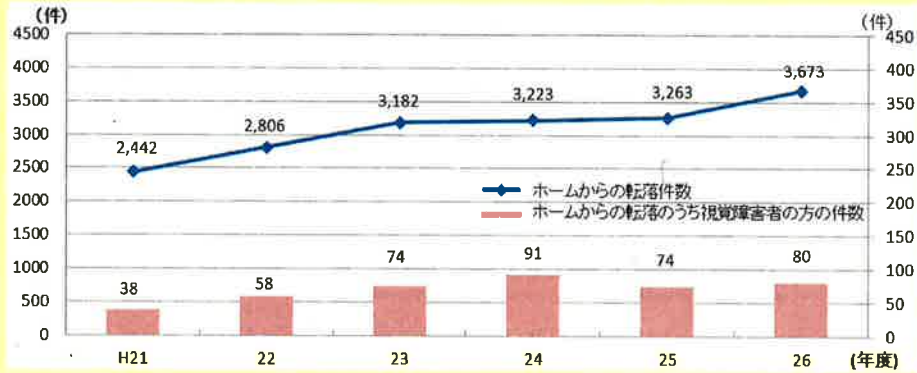
○平成26年度におけるホームからの転落件数³は3,673件であり、このうち視覚障害者の方の転落件数が80件(2.2%)となっています。

○平成26年度に発生した人身障害事故のうち「ホームから転落して列車等と接触」したものと「ホーム上で列車等と接触」したものを合わせた「ホームでの接触」事故は227件で、このうち視覚障害者の方の件数が2件(0.9%)となっています。

○平成21～26年度におけるホームからの転落件数は増加傾向にあり、引き続きプラットフォームからの転落等に対する取組みとして、「プラットフォーム事故0(ゼロ)運動」や「鉄道利用マナーUPキャンペーン」などの啓発活動の実施、ホームドア、可動式ホーム柵、内方線付きJIS規格化点状ブロックの整備、新たなタイプのホームドアの技術開発等、総合的な転落等の防止対策を進めていきます。

³ ホームからの転落件数は、プラットフォームから転落したが列車等と接触しなかった件数である。ホームからの転落件数は、鉄軌道事業者が把握している件数である。自殺等故意にホームから線路に降りたものは含まれない。

ホームからの転落件数の推移

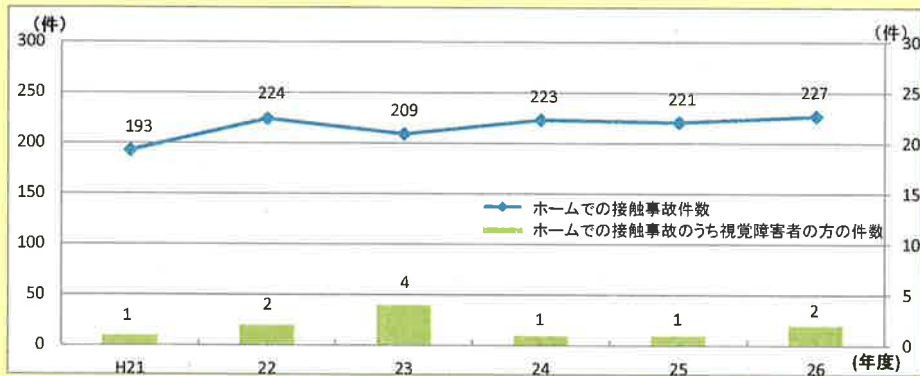


注) ホームからの転落件数は、プラットフォームから転落したが列車等と接触しなかった件数である。

注) ホームからの転落件数は、鉄軌道事業者が把握している件数である。

注) 自殺等故意にホームから線路に降りたものは含まれない。

ホームでの接触事故件数の推移



注) ホームでの接触事故件数は、「ホームから転落して列車等と接触」及び「ホーム上で列車等と接触」して事故となった件数を合わせたものである。

注) 自殺等故意に列車等に接触したものは含まれない。

鉄道の安全性を更に向上させるために鉄道事業者による安全対策の充実に加え、鉄道利用者、踏切通行者、鉄道沿線住民等の理解と協力が不可欠です。このため国土交通省では、利用者等が正しく理解して守るべき共通の約束事をまとめた「鉄道の安全利用に関する手引き」を作成しております。詳しくは、<http://www.mlit.go.jp/common/000128837.pdf> をご覧ください。

平成28年8月26日

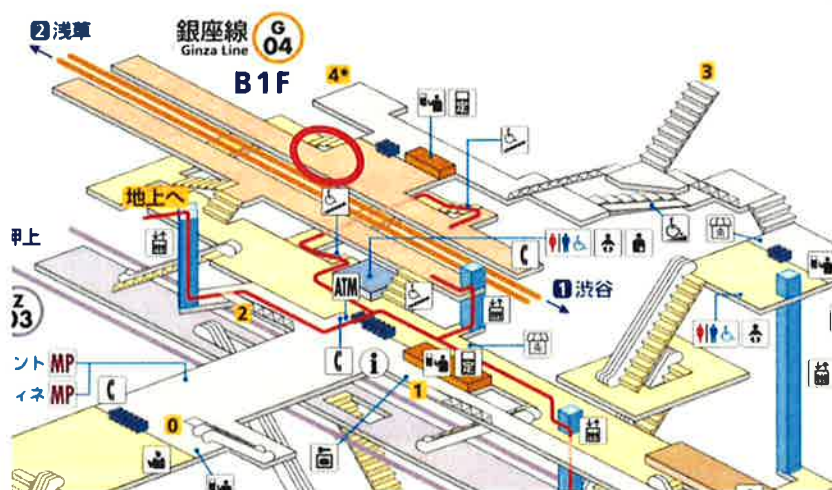
東京地下鉄株式会社

銀座線青山一丁目駅での人身障害事故の概要及び同種事故防止策について

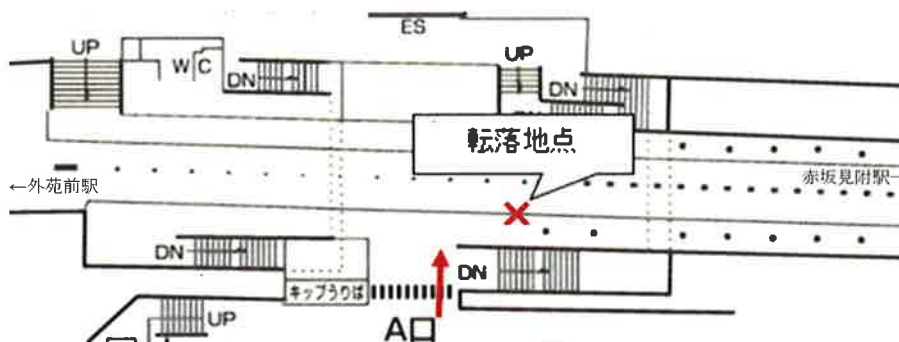
1 概要

平成28年8月15日(月)17時44分頃、銀座線青山一丁目駅南青山方面改札口から入場した盲導犬をお連れのお客様(男性・55歳)は渋谷方面行きホーム上の白線付近を歩行したため、ホーム整理中の駅係員がマイクにて「下がってください」と注意喚起放送を実施したが、当該お客様は軌道内に転落した。このため、駅係員は進入してくる列車に対して合図灯による停止合図を送るとともに、ホーム上にある非常停止合図器を操作した。当該お客様が軌道内へ転落した約2秒後に、列車は転落箇所を通過して急停車した。

〈発生箇所：赤丸〉



〈転落地点：赤×〉



2 今後の同種事故防止策

(1) ホームドア設置のより一層の促進

青山一丁目駅を含む銀座線、千代田線、日比谷線の全駅及び東西線、半蔵門線の先行設置駅について、既に最短となる工程で計画しているが、工程を再度精査し、一日でも早く設置できるよう努力する。また、東西線、半蔵門線の先行設置駅以外の駅についても、引き続き早期設置に向けて、課題解決に取り組む。

(2) 目の不自由な方等がご利用する際に見守り体制を強化する取り組み

ア 8月16日付で全駅係員等に対して、目の不自由なお客様等がご利用される場合、その動向等を注視し、可能な限り必要なお声掛けを行うことや、異常時の取扱いについて改めて周知した。

イ 社会全体でお身体の不自由なお客様等を見守ることができるような風土を醸成するため、ご利用のお客様にもご協力をお願いする取組み（ポスターの掲出、放送等）を進める。

以 上

整備状況

全国665駅(平成27年度末)に整備済

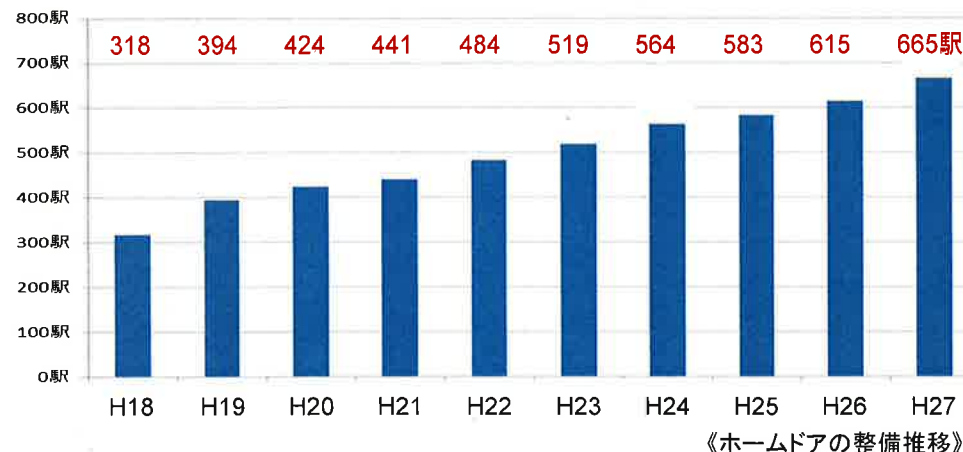
※利用者数10万人/日以上駅では251駅のうち77駅に整備済

整備目標

- バリアフリー法に基づく「基本方針」(平成23年3月)において、ホームドアについては「優先的に整備すべき駅を検討し、地域の支援の下、可能な限り設置を促進」と定める。
- 「ホームドアの整備促進等に関する検討会」の「中間とりまとめ」(平成23年8月)において
 - ① 視覚障害者からの要望が高い駅
 - ② 利用者数の多い(特に利用者数10万人/日以上)駅(全国251駅(平成26年度末))を優先して転落防止対策(ホームドア等の整備)を実施。
- 交通政策基本計画(平成27年2月)において、同様の駅について、優先的に整備するとし、平成32年度までに800駅とする目標を設定

課題

- ホームドア設置には、車両扉の不一致、ホーム補強工事等、技術面、コスト面(1駅あたり数億~10数億円)等で大きな課題が存在



【参考】移動等円滑化のために必要な旅客施設又は車両等の構造及び設備に関する基準を定める省令(抜粋)

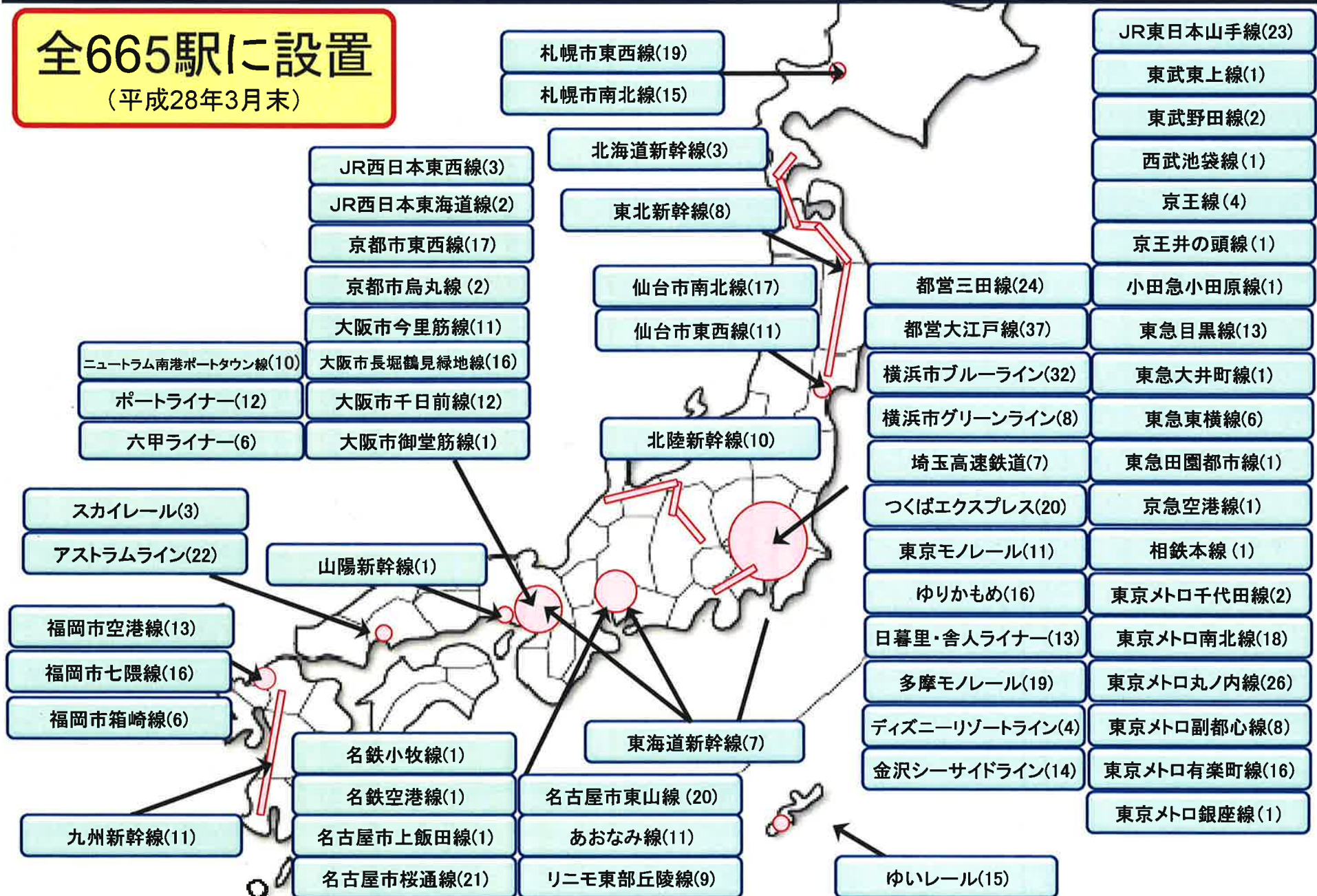
第二十条 鉄道駅のプラットホームは、次に掲げる基準に適合するものでなければならない。

六 発着するすべての鉄道車両の旅客用乗降口の位置が一定しており、鉄道車両を自動的に一定の位置に停止させることができるプラットホーム(鋼索鉄道に係るものを除く。)にあつては、ホームドア又は可動式ホームさく(旅客の円滑な流動に支障及ぼすおそれがある場合にあつては、点状ブロックその他の視覚障害者の転落を防止するための設備)が設けられていること。

ホームドアの設置状況

資料3-1②

全665駅に設置
(平成28年3月末)



ホームドア整備に対する補助制度

【地域公共交通確保維持改善事業費補助金】

(バリアフリー化設備等整備事業)

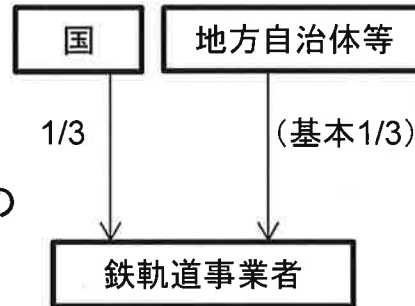
平成28年度予算 229億円の内数

〈対象事業者〉 JR、民鉄

〈補助対象事業〉

ホームドア、障害者対応型トイレの整備等

〈補助率〉 1/3



【訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費補助金】(交通サービス利便向上促進事業)

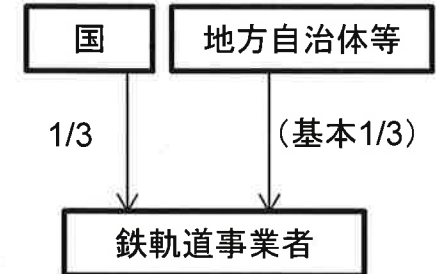
平成28年度予算 80億円の内数

〈対象事業者〉 JR、民鉄

〈補助対象事業〉

ホームドア、エレベーター、スロープの整備等

〈補助率〉 1/3



【都市鉄道整備事業費補助】

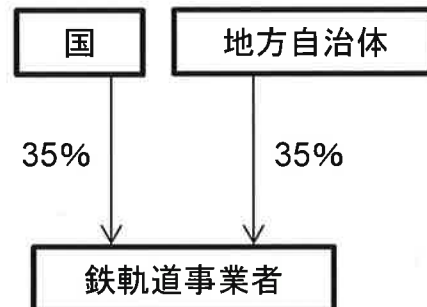
平成28年度予算 22億円の内数

〈対象事業者〉 地下鉄事業者

〈補助対象事業〉

ホームドア、エレベーター、障害者対応型トイレの整備等

〈補助率〉 35%



鉄道分野の技術開発に対する補助制度

【鉄道技術開発費補助金】(一般鉄道技術開発)

平成28年度予算 3億円の内数

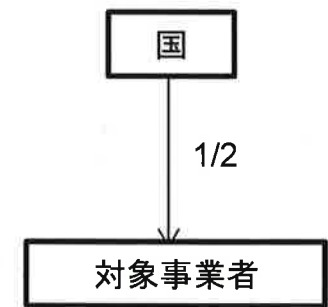
〈対象事業者〉

鉄道分野に関する技術開発を実施する能力を有する法人等

〈補助対象事業〉

新たなタイプのホームドア等の鉄道分野に関する新技術開発

〈補助率〉 1/2



新たなタイプのホームドアの技術開発事例

資料3-2

○車両扉位置の相違やコスト低減等の課題に対応可能な新たなタイプのホームドアの技術開発

方式	戸袋移動型	昇降バー式	昇降ロープ式	昇降ロープ式(支柱伸縮型)	マルチドア対応ホームドア
開発主体	(株)神戸製鋼所	(株)高見沢サイバネティックス	日本信号(株)	西日本旅客鉄道(株)	三菱重工交通機器エンジニアリング(株)
概要	 <p>20m・4扉車(例) 18m・3扉車(例)</p> <p>戸袋</p>	 <p>上昇時 下降時</p>	 <p>上昇時 下降時</p>	 <p>上昇時 下降時</p>	 <p>4ドア 3ドア 2ドア</p>
特徴	戸袋が移動することにより、異なる扉位置の車両やオーバーランに対応	ドア部分を昇降するバーやロープとすることにより開口部を広くし、異なる扉位置の車両やオーバーランに対応 ホーム基礎の補強工事を簡素化することにより設置コストを低減	ドア部分を昇降するロープとすることにより開口部を広くし、異なる扉位置の車両やオーバーランに対応 支柱を伸縮式とすることでホーム端の見通しを確保	ホームドアの開閉位置を変えることにより、異なる扉位置の車両に対応 車両改造を必要とせず、地上センサーによりホームドアの開閉を自動化	
現地試験等	西武新宿線新所沢駅にて現地試験実施【H25. 8～H26. 2】	相鉄いずみ野線弥生台駅にて現地試験実施【H25. 10～H26. 10】	東急田園都市線つきみ野駅にて現地試験実施【H25. 10～H26. 9】	JR桜島線桜島駅にて現地試験実施【H25. 12～H26. 3】 JR東海道線六甲道駅にて試行運用【H26. 12～H27. 3】	本年秋頃より、京急久里浜線三浦海岸駅(2ドア車と3ドア車が混在)にて現地試験実施予定
実用化に向けた動き等		JR八高線拝島駅にて試行導入(JR東日本)【H27. 3～】 下降時の支柱高さを抑えてホーム端の見通しを確保した新たなタイプを開発中		JR東海道線六甲道駅での試行運用の結果、実用化可能との判断により、同駅において継続設置【H27. 4～】 JR東海道線高槻駅にて稼働中【H28. 3～】	